

死亡診断書(死体検案書)

記入の注意

この死亡診断書(死体検案書)は、わが国の死因統計作成の資料としても用いられます。かい書で、できるだけ詳しく書いてください。

氏名	1男 2女	生年月日	明治 昭和 大正 平成	年 月 日	午前・午後 時 分
	死亡したとき	平成 年 月 日	午前・午後 時 分		
死亡したところ及びその種別	死亡したところの種別	1.病院 2.診療所 3.老人保健施設 4.助産所 5.老人ホーム 6.自宅 7.その他			
	死亡したところの種別	番 地 番 号			
	(死亡したところの種別1~5) 施設の名称				
死亡の原因	(ア) 直接原因			発病(発症)又は受傷から死亡までの期間 ◆年 月 日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時・分等の単位で書いてください。(例:1年3か月5時間20分)	
	(イ) (ア)の原因				
	(ウ) (イ)の原因				
	(エ) (ウ)の原因				
	II 直接死因に関係しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等				
手術	1無 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 昭和 年 月 日	
	1無 2有	主要所見			
解剖	1無 2有				
	1無 2有				
死因の種類	1 病死及び自然死				
	外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } その他及び不慮の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不慮の外因				
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県 市郡 区町	
	傷害が発生したところの種別	1住居 2工事及び建築現場 3道路 4その他()			
	手段及び状況				
生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重 グラム	単胎・多胎の別 1単胎 2多胎(子中第 子)	妊娠週数 満 週	人胎	
	妊娠分娩時における母体の病態又は異常	母の生年月日 昭和 平成 年 月 日	前回までの妊娠の結果 出生時 死産時 (妊娠満22週以後の限る)		
その他特に付言すべきことから					
上記のとおり診断(検案)する		診断(検案)年月日 平成 年 月 日			
〔病院、診療所若しくは老人保健施設等の名称及び所在地または医師の住所(氏名) 医師〕		本診断書(検案書)発行年月日 平成 年 月 日			
		番地 番号			
		印			

← 生年月日が不詳の場合は、指定年齢をカッコを付けて書いてください。

← 夜の12時は「午前0時」、昼の12時は「午後0時」と書いてください。

← 「老人ホーム」は、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム及び有料老人ホームをいいます。

← 傷病名等は、日本語で書いてください。I欄では、核傷病(発病の型(例:急性)、病因(例:病原体名)、部位(例:胃噴門部がん)、性状(例:病理組織型)等)できるだけ書いてください。

← 妊娠中の死亡の場合は、「妊娠何週」、また、分娩中の死亡の場合は「妊娠何週何分何秒」と書いてください。

← 産後42日未満の死亡の場合は「妊娠何週何日後何日」と書いてください。

← I欄及びII欄に關係した手術について、術式又はその診断名と關係のある所見を當面書いてください。紹介状や伝聞等による情報についてもカッコ付して書いてください。

← 「2交通事故」は、事故発生から期間にかかわらず、その事故による死亡が該当します。

← 「5煙、火災及び火焔による傷害」は、火災による一酸化炭素中毒、窒息等を含みます。

← 「1住居」は、住宅、直等でない、老人ホーム等の居住施設は含まれません。

← 傷害がどういふ状況で起こったかを具体的に書いてください。

← 妊娠週数は、最終月経、基礎体温、超音波計測等により推定、できるだけ正確に書いてください。母子健康手帳等を参考に書いてください。